

日刊建設新聞

The Nikkan Kensetsu Shinbun



関東道路 武藤正浩 代表取締役

環境で地域に貢献



関東道路(武藤正浩代表取締役)が「平成29年度廃棄物・浄化槽研究開発労苦表彰」で環境大臣表彰を受賞した。今回の受賞は、同社が開発した再生素材「エコマルト」を活用することによって「地域を循環型リサイクル工場」を構築し、溶融スラッグの最終処分費削減を実現したことが認められたため。また、同事業はこれまで3Rの推進労苦として22年度国土交通大臣賞を受賞している。ひとつの事業でふたつの大臣賞を受賞するのは、全国的にも例を見ない業績だという。武藤社長に受賞のポイントを聞いた。

事業の概要
ごみ処理の際に排出されるアルミ合金材として再利用できる。15年に事業の第1号として認定された。溶融スラッグの最終処分には年間約1億5000万円の費用がかかるが、エコマルトとして再利用することによって費用を軽減できる。特にこの数年は筑西広域市・町村圏事務組合から出る溶融スラッグの全量を引き取っているため、最終処分費はゼロとなり、約6

が美用的に使用でき、期間を経て実用化に至る。土末会社や舗装会社が求められる技術は、一事業として認められた工場内舗装などの実験。エコマルト使用に求められている。土末会社や舗装会社が、同じような使用に期待していると感じたことは、味は飛行。

「事業の特長について、特殊な技術は必要なら、全国的に見れば実用化している会社は、いくつかある。価格については、普通に仕事をすれば、単に工事をするだけでなく、茨城での浸透は、常に地域環境に貢献するが目標。環境率は、筑西と稲城市にあっては、国産補助の工打診を受けたが、一体的には、官民が一体となら、私は薬剤師の資格を有しており、理系の視点から面白いと感じ、建設業と産廃業の中に環境を、取入れたに、スチラスチルを確立して、この事が早いことが理由には、このも、環境に貢献していく形、将来に進んでいきたい。

溶融スラッグの処分費削減

た。この事業を開始して10年以上になるが、エコマルトと他の合金材と比べて劣り、和市長建設などの代表取締役に加えて、城東商事、部卒、関東道路の代表取締役、59歳、昭和大学薬学、昭和33年9月30日生ま

昭和33年9月30日生ま